

会議名	平成25年度第1回西尾市子ども読書推進委員会
日時	平成26年1月30日(木)午後3時～4時30分
場所	西尾市立図書館会議室
出席者	尾崎委員長、小松教育部長、中村図書館長、三矢指導主事、近藤生涯学習課長、石川子育て支援課主任主査、永谷子ども課長、石川健康課長、山下米津小学校長、杉浦図書館ボランティア、菅原主任主査、高須主任主査、生田主査
<p>委員会の中で出されたことは以下のとおり。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 あいさつ 尾崎委員長あいさつ 2 自己紹介 委員全員の自己紹介 事務局職員の自己紹介 3 議題 <ol style="list-style-type: none"> (1) 西尾市子ども読書活動推進計画の進捗状況について 事務局より説明の後、各担当課ごとに進捗状況を説明。(資料1) <p>図書館</p> <p>未実施または減少しているものについて検証します。</p> <p>1-1(2)については、出産前の方を対象に、読書活動啓発パンフやブックリストを作成し、健康課と連携をし配布していく。</p> <p>1-1(3)については、家庭支援児童課、子育てセンター、生涯学習課と連携し実施していく。</p> <p>1-1(4)については、図書館で絵本リストを作り、健康課の協力のもと進める。</p> <p>1-1(6)については、4月23日を西尾市子ども読書の日と設定したことを設置済みといい、今後はアンケート調査を実施し割合を把握する予定。</p> <p>1-1(7)については、生涯学習課のふれあいセンターフェスティバルの中で実施を考えている。</p> <p>1-1(9)23年は本館分館でそれぞれで行っていたものを、25年は本館でまとめたため、回数としては減っている。</p> <p>3-2(1)23年から25年で減っているが、23年は本館分館でそれぞれで図書館だよりを作成していたが、25年は本館でまとめて作成したため。種類としては減ったが、配布枚数は増えている。</p> <p>3-3(4)については、シニア対象の講習会を行いたい。</p> <p>学校教育課</p> <p>2-1(1)～(4)については、しっかりやっていると認識している。</p> <p>2-1(5)と(7)については、今後の課題だと思っている。母語が日本語でない生徒が多様化しているため、なかなか難しい。</p> <p>2-2については、徐々に整備されている。特に学校図書館ボランティアは数も多く、活発に活動してもらっている。</p> <p>2-3については、予算に係ることなので、検討していきたい。</p> <p>子育て支援課</p>	

図書館から児童クラブへ月に1回配本してもらっているため、100%を達成している。子どもたちは新しい本が届くととても喜び、本への興味を高めるのに役だっている。

子ども課

1-1(10)について、貸出はしているが、家庭での親子の読み聞かせの指導については今後の課題としたい。

2-1(3)について、未実施となっているが、情報交換は園内では実施している。各園間での実施は未実施。

2-1(8)100%→40%と低下してしまったように見えるが、担当によっては、計画というのが書面でないといけないと認識しているものもあり、この数字となった。保育の中で日常的に読み聞かせはいる。今後は計画の中に入れていくようにしたい。

2-4(2)について、園が図書館に積極的に派遣を要請しているということはない。各園でこのようなことがあるという認識が無いため、図書館の方からPRしてほしい。

生涯学習課

ふれあいセンターの中に図書コーナーを設け、地域の人が利用している。今後も図書館と連携を密にし地域の人に使ってもらえる施設として行きたい。

健康課

ブックスタートで連携している。1-1(2)と(4)については保健師と連携をしてほしい。1-2(4)で、絵本コーナーの本の冊数がH25は減っているがどうということか？

→ この数字は配本の延べ冊数で、今年度はまだ年度途中のためこの数字となっている。

委員長

この計画の言葉の表現が曖昧な部分があり、数値の目標や実施状況の記載が曖昧になってしまっているように見受けられる。担当でない人が見てもわかるような記載方法にしたほうが良い。

教育庶務課についてはどうなっているか。

→ 教育庶務課については委員に入っていないため、書面で回答をもらっている。2-3(2)(5)についてだが、今年は予算は取っていないということ。

質問 2-1(4)について、読書啓発週間が86%ということは、やっていない学校があるのか。

→ それはないと思う。何らかの形でどの学校も実施しているはず。

意見 調査方法を確認してほしい。また、もしやっていない学校があれば教えてほしい。

母語についてだが、今は母国語も日本語もできない子どもが増えている。コミュニケーション上のトラブルもある。母国に戻る予定のない人が多いため、日本語をマスターしてもらったほうが良い。母国語の本を増やすのが良いか日本語を勉強するための本を増やすのが良いか、これらも含め考え直したほうが良いと思う。方向修正が必要かもしれない。ちなみにうちの学校では、ひらがなが読み書きできるようになった生徒には日本語の絵本を読ませている。

学校司書の配置については、司書がいる学校は図書館が活性化している。配置できなければ、補助員だけでも置いてほしい。司書教諭は担任を持っていると時間数を減らすことも困難である。選書や環境整備等を学校司書がやってくれていてとても助かっている。

意見 国際交流の人と活動することがある。先の母国語についてだが母国語のない子どもができてしまうのはかわいそうだ。国際交流のボランティアが子どもたちに教えている

が難しい。国全体で考えてほしい。

豊田市では「23日はテレビを消して読書を」という啓発シールを作っている。家庭では親が自覚してもらう必要があり、親向けに啓発をすることが大切だと思う。

学校図書館に冷房がないのはどうか。図書館をホッとする場所にしてほしい。図書館に来てくれさえすれば本に手が伸びるはずである。

意見 図書館ではPRしているというが、まだまだ23日が読書の日と知らない親がいる。家中でやってほしい。テレビやゲームから離れてほしい。言語の多様化については、外国語の本を揃えるより、日本語をしっかり学んでほしい。

意見 ブックスタートの時に外国人が来るが、赤ちゃん絵本から日本語を勉強してみても言っている。

意見 日本語と外国語の両方が書いてある本を揃えたらどうか。三浦太郎さんもそのような本を出していると思う。

意見 国際交流のイベントでは、外国の子どもがその言葉で絵本を読み、その後に私達が日本語で読むということをしている。2か国語が書いてある絵本はいろいろあると思う。

意見 園と図書館の連携として、園児が保育中に図書館を訪問することは難しい。歩いていける近隣の園しかやれない。それをバスを使ってまで実施し数字を上げたほうが良いのか。現実味がない。

→ 現在は確かに近隣の園しか利用していない。難しいということは承知している。小学校では市のバスを利用して訪問してもらってはいる。

意見 園のほうが積極的に動いてしまうと、増えすぎて図書館での対応が困るかもしれない。年に1回でもバスで訪問するという取り組みをしてもらえれば、参加する園もあるかと思う。

また、図書館員の派遣要請だが、全園がそうした時に図書館は対応できるのか。目標値があるが、それを達成させたいのなら図書館で対応してほしい。

→ 一色吉良幡豆の園は定期的に図書館員が出向いているが、西尾地区は行けていない。職員体制を整えていきたい。

意見 図書館でこういうサービスができるということ、年度初めの園長会議等でPRするとよい。

質問 達成度の減少しているものや0回のものについて、今後具体的な予定があるのか。1-1(7)、1-1(9)、3-3(4)など。

意見 1-1(7)の地域のイベントに参加するという件だが、先ほど図書館長がふれあいセンターフェスティバルに参加すると言われたが、このイベントはふれあいセンターで活動している人たちの発表の場であり、図書館のおはなし会のようなものをやるスペースはない。図書館と検討したい。

質問 1-1(7)のH23に3回というのは何に参加したものか。

→ 室場ふれあいセンターのイベントと国際交流のイベント。

意見 こういったイベントをすべて把握して参加するつもりなのか。呼ばれなければ行かないというのであれば目標達成はできない。積極的に参加する方向にしないとダメである。

質問 3-3(4)のシニア世代のおはなし会とはどういうものを考えているのか。

→ 定年退職した人の活躍の場をということで考えた。学校などのよみかせボランティア

アに入ってもらおうための人を養成することを考えているが、今後もう少し具体化していきたい。

(2) その他

事務局より2点説明

1 会議の公開制度について

会議を公開していく制度があり、図書館ではこの会議と図書館協議会があてはまり、図書館協議会は公開している。この会議はどうしたらよいか。

意見 この会議は個人情報扱わないので、公開してもよいと思う。

公開することで了承を得た。また、人数については事務局に一任とする。

次回からはホームページ等で募集していく。

2 この計画の啓発について（当日配布資料）

23日が子ども読書の日というPRも含め、リーフレットを作成したらどうか。計画の1次の時はA3サイズ両面のものを作成した。また、計画の中に作成するとある。市民に周知するにはリーフレットよりチラシの方がいいのではと、事務局で案を作ってみた。リーフレットが良いかチラシが良いかということも含めて検討したい。

質問 リーフレットとチラシの違いは何か

→ ボリュームの違い。予算的なこともあるし、チラシは手作りで増し刷りが可能である。

意見 この案では文面がかたい。

意見 横浜市のものが参考になる。原稿を作って、各委員に意見を聞いたらどうか。

意見 字数は少ないほうがいい。興味のない人をターゲットにし、気を引くものにすべき。

「本を読むといいことがある」とわかるものに。計画が策定されたということは、大多数の人は関係ない。「本を読むといいよ」という内容にした方がいい。読書環境を家庭で作ってもらえるようにする。

意見 西尾小学校や旧吉良町は読書の日のはのぼりを立てていた。そういったPR方法もある。読書は習慣にするということが大切。

意見 今後、進捗状況を報告するのなら年度初めに開催すべきである。

委員長により子ども読書推進委員会を閉会した。